

**ドイツ語 (初級 A) / A ドイツ語 第 6 回 名詞の複数形、特殊変化の名詞**

範囲：教科書第 3 課 B, C (S. 17-18)

《今回の基本例文》

13. Die Vögel singen und die Bäume blühen. (CD18-1)

鳥たちは歌い、木々は花咲く。

[名詞の複数形]

14. Wir begegnen einem Studenten. (CD19-1)

私たちはある学生に出会う。

[男性弱変化名詞、(3 格目的語をとる動詞)]

**I 名詞の複数形と特殊変化の名詞**

**B. 名詞の複数形 (S. 17)**

■ 名詞の複数形のつくり方

無語尾型	┐	┐	→ 複数形 = 単数形	
	└ 変音	┐	→ 複数形 = 単数形 + ウムラウト	
E 型	┐	┐	→ 複数形 = 単数形 + e	
	└ 変音	┐	→ 複数形 = 単数形 + e + ウムラウト	
ER 型	┐ 変音	┐	→ 複数形 = 単数形 + er + ウムラウト	
(E)N 型	┐	┐ N 型	→ 複数形 = 単数形 + n	
		└ EN 型	→ 複数形 = 単数形 + en	
S 型	┐	┐	→ 複数形 = 単数形 + s	... 以上 8 種類

\* ここで言う名詞の「複数形」とは、複数 1 格のことを指す。

◇ 原則として単数形の語尾に-s をつければ**複数形**になる英語やフランス語と異なって、ドイツ語には単数形から複数形をつくるときの語尾が 5 種類ある。さらに、名詞の幹母音が変音する場合としない場合があり、これを加味すれば 8 種類となる。

◇ 各名詞がどの複数形のパターンに該当するのかは、必ず辞書に記載されている。(⇒本資料 S.5)。

◇ **無語尾型**は、単数形に語尾を加えずに複数形をつくるパターンで、幹母音が変音するものとしないものがある。

\* 言うまでもなく、「変音」とはウムラウトがつくこと。つまり、i と e は変音できない。

・ **無語尾型 + 変音なし** (単数形と複数形がまったく同じ)

der Onkel → die Onkel m. おじ (uncle)

der Wagen → die Wagen m. 車 (wagon)

\* 以下、単数形と複数形を見やすくするため 1 格の定冠詞をつけて表記する。性別は単数形のもの。

\*\* 無語尾型 + 変音なしの名詞の場合、それが単数なのか複数なのかは、冠詞および動詞の人称変化から判断することになる。

・無語尾型+変音あり

die Mutter → die Mütter *f.* 母 (*mother*)

die Tochter → die Töchter *f.* 娘 (*daughter*)

\* Tochter と Töchter の ch の発音に注意。前者は a, o, u のあとなので[x]、後者はそれ以外なので[c]。

◇ **E 型**は、単数形に語尾-e を加えて複数形をつくるパターンで、やはり幹母音が変音するものとしないものがある。

・E 型+変音なし

das Jahr → die Jahre *n.* 年 (*year*)

der Brief → die Briefe *m.* 手紙

・E 型+変音あり

der Arzt → die Ärzte *m.* 男性医師

die Stadt → die Städte *f.* 都市

◇ **ER 型**は、単数形に語尾-er を加えて複数形をつくり、なおかつ幹母音が必ず変音するパターン。ただし、幹母音が i や e のときはもちろん変音できない。

das Haus → die Häuser *n.* 家 (*house*)

das Kind → die Kinder *n.* 子供 (*child*)

\* Haus → Häuser の場合、二重母音 äu や母音の前の s の音にも注意。

◇ **(E)N 型**は、単数形に語尾-en か-n を加えて複数形をつくり、幹母音は絶対に変音しないパターン。

・N 型: -e, -ie, -er, -el などアクセントのない語尾の名詞

das Auge → die Augen *n.* 目 (*eye*)

die Tasche → die Taschen *f.* かばん

・EN 型: 上記以外の名詞

die Frau → die Frauen *f.* 女性、妻

die Wohnung → die Wohnungen *f.* 住宅、アパート

\* (E)N 型では、複数 3 格の-n は余計につけない (もともと-n がついているため)。

◇ **S 型**は、英語などと同じく単数形に語尾-s を加えて複数形をつくり、幹母音は絶対に変音しないパターン。英語やフランス語からの外来語のみ。

das Auto → die Autos *n.* 自動車

\* S 型では、複数 3 格の-n はつけない (-sn となると発音しにくい)。

◇ どの名詞がどのパターンで複数形をつくるのかについては、性別と同じく、語尾で判断できる場合がある。それをまとめたのが、今回の別紙「**名詞の語尾と複数形の関係**」になる。

**練習問題の補足**

**Übung 1** (S. 17)

1~8. 本資料 S. 5 の「**■** ドイツ語の名詞を辞書で引くときの見方」を参照。

**Übung 2** (S. 17)

1~4. 名詞が複数形になると動詞も変化することに注意

## C. 特殊変化の名詞

### ■ 特殊変化の名詞とは

◇ 教科書第 2 課で見た通り、一般に格変化を行うのは冠詞など名詞にくっつく要素であり、名詞自体はほとんど変化しなかった (男性 2 格や中性 2 格の語尾-s、複数 3 格の語尾-n を除く)。ただし、男性名詞と一部の中性名詞のなかには、名詞自体が変化するものがいくつかある。大きく分類すると、

- ・ **男性弱変化名詞**: 単数 1 格とそれ以外 (単数 2 格~複数 4 格) のかたちが異なる男性名詞
- ・ それ以外の特殊な名詞

と考えてよい。

### 1 男性弱変化名詞

◇ **男性弱変化名詞**とは、単数 1 格以外のすべての数と格に-en という語尾が現れる男性名詞である。

\* -en の語尾が現れる変化を「弱変化」と呼ぶことになっている (J・グリムによる)。形容詞にも弱変化が存在する。

(⇒教科書第 10 課)

◇ 男性弱変化名詞は、次の 3 パターンに分けられる (授業第 4 回「名詞の性別の見分け方」も参照)。

- ・ **-e の語尾を持つ男性名詞**。主に人や動物を表す。

Junge *m.* 少年、Franzose *m.* フランス人、Affe *m.* 猿、Löwe *m.* ライオン

\* ただし、Käse *m.* チーズのみ例外的に一般の男性名詞。それ以外の-e 語尾の男性名詞は男性弱変化名詞もしくは Name 型 (2 で後述)。

- ・ **-ent, -ant, -at, -ist の語尾を持つ外来語系の男性名詞**。主に職業などを表す。これらの名詞はすべて語尾にアクセントを持つ。

Student *m.* 学生、Kommandant *m.* 司令官、Automat *m.* 自動販売機、Polizist *m.* 警察官

	Junge		Student	
1 格	der Junge	die Jungen	der Student	die Studenten
2 格	des Jungen	der Jungen	des Studenten	der Studenten
3 格	dem Jungen	den Jungen	dem Studenten	den Studenten
4 格	den Jungen	die Jungen	den Studenten	die Studenten

- ・ **その他**、語尾に特徴がないもの。

Mensch *m.* 人間

\* 「その他」はほかにもいくつか存在するが (Fürst *m.* 王侯、Narr *m.* 馬鹿者 など)、Mensch のみが最重要。

	Mensch	
1 格	der Mensch	die Menschen
2 格	des Menschen	der Menschen
3 格	dem Menschen	den Menschen
4 格	den Menschen	die Menschen

\* 男性弱変化名詞では、複数 3 格の-n は余計につけない (もともと-n がついているため)。

**2** **ほかの特殊変化名詞** (男性弱変化名詞とは別の不規則変化をする名詞) (S. 18)

◇ **Name** (*m.* 名前) **型**は、単数 2 格に**-ens** という語尾が現れ、単数 3 格以下は男性弱変化名詞と同じ **-en** の語尾をとる。

	Name	
1 格	der Name	die Namen
2 格	des Namens	der Namen
3 格	dem Namen	den Namen
4 格	den Namen	die Namen

\* もちろん英語の *name* に相当。

\*\* Name 型の名詞はほかにもいくつかある。Friede *m.* 平和、Gedanke *m.* 思想、Glaube *m.* 信仰、Wille *m.* 意志 など。

◇ **Herr** (*m.* ~氏、紳士、主君) は、単数 2 格以下は**-n** の語尾、複数形はすべて**-en** の語尾をとる。この 1 語のみの変化形。

	Herr	
1 格	der Herr	die Herren
2 格	des Herrn	der Herren
3 格	dem Herrn	den Herren
4 格	den Herrn	die Herren

\* Herr を英語の *Mr.* と同じ男性に対する敬称として使う例はすでに何度か登場したが、単独で使用する場合、「紳士 (*gentleman*)」や「主君 (*lord*)」の意味になる。

\*\* 手紙などの宛名 (誰々様へ) として書く場合、「Herrn 誰々」と単数 3 格にする。

◇ **Herz** (*n.* 心) は、中性名詞であるが、Name 型の男性名詞に近い変化をする。ただし、単数 4 格は単数 1 格と同じ。やはり、この 1 語のみ。変化表は以下の通り。

	Herz	
1 格	das Herz	die Herzen
2 格	des Herzens	der Herzen
3 格	dem Herzen	den Herzen
4 格	das Herz	die Herzen

\* 英語の *heart* に相当。

**練習問題の補足**

**Übung 1** (S. 18)

1. *begegnen* (*vi.* 〈3 格〉に会う) は、これまで登場した *gehören* や *helfen* と同じく、典型的な 3 格目的語をとる動詞。それゆえ、他動詞ではなく自動詞になる。

## ■ ドイツ語の名詞を辞書で引くときの見方

### 《辞書における名詞の項目に書いてある情報》

発音記号

性別

単数 2 格/複数 1 格を示す記号

◇ 基本的に、辞書の項目となっているのは名詞の単数 1 格である。

\* 複数形しか存在しない名詞 (Eltern, Ferien など) は、当然そのまま項目が立ち、*pl.*などと記載されている。

\*\* 複数 1 格も項目化されている場合もある。もし、文章を読んでいて複数形から単数形を復元できなかった場合、複数形をそのまま辞書で引いてもよい。

◇ ドイツ語の名詞を辞書で引くと、発音記号や性別などの情報と並んで、「-s/-」のような記号が必ず書かれている。これは、「単数 2 格/複数 1 格」のことを意味する。というのは、ドイツ語の名詞では、単数 2 格と複数 1 格がわかればすべての変化形を復元できるからである。例を挙げれば、

- Lehrer : 「-s/-」 → 単数 2 格が-s (Lehrers) となる規則変化名詞で、複数形は無語尾型の変音なし (Lehrer)。
- Vater : 「-s/¨」 → 単数 2 格が-s (Vaters) となる規則変化名詞で、複数形は無語尾型の変音あり (Väter)。
- Buch : 「-(e)s/¨er」 → 単数 2 格が-s か-es (Buchs か Buches) となる規則変化名詞で、複数形は er 型、ゆえに変音あり (Bücher)。
- Junge : 「-n/-n」 → 単数 2 格が-n (Jungen) となる男性弱変化名詞で、複数形は(E)N 型 (Jungen)。

\* 男性弱変化名詞以外の特殊変化名詞は、主な変化形がみな書いてあることが多い。

◇ 実際の辞書への記載例は以下のようにになっている。各自、自分が使っている辞書の表記法がどうなっているかを確認しておいてほしい。

**Satz**[zats] 男 -es/Sätze[zétsə] (Ⓞ) **Sätz-chen**[zétsçən], **Sätz-lein**[.lain] 男 -s/- 1 a 【言】(テキスト・談話の最小の単位としての)文,文章;(一文からなる)発話,発言; **Hauptsatz** 主文 | **Nebensatz** 副文 | **ein selbständiger** (abhängiger) ~ 独立(従属)文 | **ein einfacher** (zusammengesetzter) ~ 単一(複合)文 | **ein eingeschobener** ~ 挿入文 | **ein eingliedriger** (zweigliedriger) ~ 一項((主語・述語からなる)二項)文 | **ein erweiterter** ~ (構造上必要不可欠な成分以外の語・句を付け加えた)拡張文 | **ein untergeordneter** (nebengeordneter) ~ 従属(並列)文 | **ein verschachtelter** ~ (副文がいくつもあるような)箱入り文 | **ein vollständiger** ~ (定動詞のそなわった)完全な文 | **der voranstehende** (nachfolgende) ~ 先行(後続)文 | **zusammengezogene Sätze** (共通成分を省略した)縮約文 ||【主語として】Dieser ~ ist falsch. この文は間違っている | Dieser ~ ist mir nur so herausgerutscht. これはつい口がすべって言ってしまったことだ ||【4 格で】**Sätze bilden** (konstruieren) 文を作る(構成する) | **einen** ~ korrigie-

\* 『独和大辞典コンパクト版 第 2 版』小学館、1999 年より、Satz の項目。

\*\* この辞書の場合、変音ありの複数 1 格については略記ではなくそのまま書かれている。

## II ドイツ語の特殊文字、ß の使い方

### コラム ss と ß の使い分け

短母音のあと → ss

長母音か二重母音のあと → ß …新正書法の場合

◇ ss と ß はともに[s]の音となることはすでに述べた（教科書 S.7）。では、どのように使い分けられるのかというと、「短母音のあとでは ss、それ以外（＝長母音か二重母音のあと）は ß」が原則である。

\* 逆に言えば、ß の前の母音は短母音ではない（長母音か二重母音）ということ。

- Fluss (m. 川) は、u が短母音だから次に来るのは ss。
- Fuß (m. 足) は、u が長母音だから次に来るのは ß。逆に言えば、ß の前の u は長母音と推測可。
- heißen (vi. ～という名である) は、ei が二重母音だから次に来るのは ß。

◇ もっとも、「短母音のあとでは ss、それ以外は ß」は**新正書法**（1998 年～）の規則で、**旧正書法**時代の文章では異なる綴りが現れるので注意。もちろん、現在の学習者は新正書法を覚えておけばよい。

\* 旧正書法では、「短母音のあと、かつ母音の前」のみ ss、それ以外はすべて ß だった。このため、教科書の例でいえば、küssen に対して er küßt、「川」は Fluß と書かれていた。

\*\* 授業第 1 回でなるべく最近の辞書を買う必要があると説明した理由の一つは、初学者は取り敢えず新正書法を学習してほしいため。ただし、古い本、辞書、参考書では旧正書法に出くわすこともあるので、中級者以上はそちらも知ってほしい。

◇ かつて、タイプライターなどでドイツ語の特殊文字を打てない環境では、ß を ss で代用することが行われていた。ただし、この授業の試験や提出物では、本来 ß を用いるところでは ß を用いてほしい。ドイツ語の特殊文字の打ち方については授業第 2 回配付資料 S. 3-4 を参照。

◇ スイスでの Strasse 表記例（ドイツでは Straße）。



\* クロイツリンゲン (Kreuzlingen) にて撮影。

### 連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>